

能登の漁業伝統～胴船～

石川県・能登町



能登内浦海域は、現在でも日本有数の定置網漁場となっている。当地での定置網漁の起源は判然とはしないが、西暦1491年（延徳3年）の史料に「波並の鱒網」の名があることから、中世にさかのぼることは確実である。江戸時代の当地での定置網は台網と呼ばれる大がかりなものであった。

この台網漁を支えたのが“胴船”であった。近世文書では「筒舟」「胴船」などと記され、その形は先端を三角形とする長い箱形を呈した。漁船技法からみると、船底部両脇のオモキに古い丸木舟割り抜き手法をとどめた準構造船ということが出来る。用材は200年以上のスギ材を使用した。胴船のサイズは大正終わり頃までは江戸時代と同じであったが、機械船による曳航が可能になった昭和10年代には大型化した。しかし、機械船が一般化するに伴い、昭和30年頃から胴船の建造は終焉を迎えた。造船技術史上、また漁村の生業史料として“胴船”は貴重な文化財である。

TOPICS

・酒樽返し 4月2日 開催 鯨獲絵馬所蔵の神目神社の祭：二統のブリ網の若者たちが、田の中、海の中で、祭りの前に神前に供えられた酒樽を奪い合う祭

お問い合わせ先

遠島山公園

TEL / 0768-62-3669

URL / <http://town.noto.ishikawa.jp>

【交通】

バス / 穴水駅から50分

車 / (福井方面から)内灘I.C能登有料道路 / 珠洲道路
経由で1時間30分

(富山方面から)白尾I.Cから能登有料道路 / 珠洲

